

6

歴史・文化と自然が
調和したまち

本市は、高縄山系、石鎚山系の山々や瀬戸内海に注ぐ石手川と重信川、多島美を感じさせる忽那諸島の島々など、多彩な生態系を有しています。また、このような環境に松山城や道後温泉など歴史ある建造物や、俳句に代表される「ことば」文化などが調和し、美しい景観を生み出しています。

市民アンケートの結果を見ても、松山城、道後温泉は、ともに“松山らしさ”を醸し出す歴史的景観として重要な存在と認識されています。

また、市民会議では、松山らしい歴史文化を継承し、自然豊かなまちなみとの調和を図ることで俳句が詠みたくなるようなまちづくりを推進することが必要との意見が挙げられました。

これらのことを踏まえ、本市では、緑化の推進や生物多様性¹の保全に努め、自然豊かで、心安らぐまちなみの形成を推進するとともに、農業の振興などにより、豊かな自然の恵みを持続的に享受できるよう歴史・文化と自然が調和したまちづくりを目指します。

6

歴史・文化と自然が調和したまち

基本施策

6-1 豊かな緑あふれるまちにしよう

施策の方向

6-1-1 緑を育もう

6-1-2 緑豊かなまちなみを未来へつなごう

基本施策

6-2 生物の多様性を保全しよう

施策の方向

6-2-1 里地・里山・里島をよみがえらそう

6-2-2 生き物で賑わう場所を創出しよう

6-2-3 生き物を守ろう

基本施策

6-3 農地からの恵みを享受しよう

施策の方向

6-3-1 農地を有効に活用しよう

6-3-2 農業に親しもう

6-3-3 地産地消を進めよう

6 歴史・文化と自然が調和したまち

6-1 豊かな緑あふれるまちにしよう

公園や緑地を整備し、それら緑の拠点となる場所を緑道でつなぐとともに、各主体が協働して、まち全体に緑を増やす活動を推進することにより、豊かな緑あふれる舞台の創造を目指します。

6-1-1 緑を育もう

(1) 歴史・文化や自然を活かした公園整備

- 公園内に四季が感じられるような緑環境を整備するとともに、レクリエーション機能や防災機能を充実させることで、住民ニーズに沿った、誰もが憩いと交流の場として利用できる公園整備を行います。

(2) 緑あふれる建物や空間の創出

- 地域の特色や周辺の景観に配慮しつつ、道路や残地などの緑化を推進し、四季を感じられる緑道や緑地を創出します。
- 都市公園や地域の自然・歴史・文化資源など、緑の拠点を結ぶ回遊路を緑化し、緑のネットワークを形成します。
- 公共施設の屋上・壁面などの緑化、運動場の芝生化、大規模オープンスペースの緑化などにより、積極的に緑の空間を創出します。

(3) 緑化活動の推進

- 緑化協定や緑化基金などの制度を活用し、市民や事業者の協力を得ながら民有地の緑化を推進します。
- 市民が楽しみながら緑化に取り組める仕組みづくりを推進するとともに、各種広報媒体を活用し、緑化支援制度に関する情報提供や啓発を行うことで、市民や事業者などの緑化活動を促進します。

6-1-2 緑豊かなまちなみを未来へつなごう

(1) 森林の維持・保全

- 森林が有する水源かん養¹機能に加え、空気浄化などの環境保全機能、景観や教育などの文化的機能など、多様な機能を持つ森林の整備を促進します。
- 市民や団体の森林保全の取り組みを支援し、森林を守り育てる活動を推進します。

(2) 緑豊かな景観の保全

- 緑豊かなまちなみ景観の保全と創出を計画的に推進します。
- 歴史的・文化的資源と一体となった樹林地、社寺林などは、松山独自の景観を形成する重要な緑地として、各種法制度を活用し、維持・保全を図ります。
- 市民や事業者と協働して公園や各種施設内の緑地、沿道や河川の街路樹や植栽、まちかどの緑などの適切な維持管理に努め、緑豊かな景観の保全を図ります。

1 P42に語句説明あり。

6-2 生物の多様性を保全しよう

自然と触れ合う機会の拡充や生物多様性の理解と関心を深める啓発を通して、意識の醸成を図りつつ、地域と一体となった自然保全活動を推進し、生態系や生き物に配慮したまちづくりを行うことで、都市化や人の関わりが薄れることなどにより失われつつある生物多様性を保全します。

6-2-1 里地・里山・里島をよみがえらそう

(1) 地域と連携した自然保全活動の推進

- 地域の多様な主体が連携して生物多様性の保全活動を行うための基盤づくりを進めます。
- 各種広報媒体を活用し、市民や事業者の身近な自然環境に対する認識を深めるとともに、生物多様性に対する理解と関心を高めます。

(2) 里地・里山・里島に親しむ機会の創出

- 地域の豊かな自然や歴史ある景観など、地域資源を活用したツーリズムを推進し、里地・里山・里島に親しむ機会を創出します。
- 各種広報媒体を活用し、島しょ部の魅力である固有の自然環境などの情報発信に取り組みます。

(3) 里島への定住促進

- 体験滞在型交流施設の整備や定住受け入れ体制の構築に取り組むほか、空き家などを活用した定住の促進に取り組みます。

(4) 放置竹林の適正管理

- 竹林の間伐や樹種転換などを行うとともに、伐採した竹を活用するなど、里地・里山・里島における持続可能な森林環境整備を行います。



修学旅行での島しょ部における農業体験

6-2-2 生き物で賑わう場所を創出しよう

(1) ビオトープ¹の整備

○自然に触れ、親しみ、学ぶことができるビオトープを学校や公園などに整備することを検討します。

(2) 自然豊かな水辺の創出

○河川・水路の整備・改修時には、状況に応じて、多自然工法の採用など地域の自然環境に配慮した整備を推進します。

(3) 海辺と海洋環境の保全

○海辺の生き物観察会の開催や海辺の清掃、藻場の育成などにより、地域と一体となった海辺と海洋環境の保全に努めます。

(4) ため池の有効利用

○状況に応じて、ため池及びその周辺を親水空間として整備し、市民の憩いの場として活用することを検討します。

6-2-3 生き物を守ろう

(1) 公共工事における希少動植物への配慮

○専門家への意見聴取を行い、公共工事における希少動植物への影響を調査するとともに、必要に応じて、希少動植物に対する配慮を行います。

(2) 地域と連携した希少動植物などの保全

○希少動植物などの保全活動に市民が参加する機会を創出するとともに、各種広報媒体を活用して、参加を促すことにより、地域と一体となった保全活動の浸透と拡大を図ります。

(3) レッドデータブック²まつやま2012の普及啓発

○「レッドデータブックまつやま2012」を活用し、市民に対して希少動植物の保護に関する普及啓発を行います。

(4) 動植物の適正飼育

○飼主が野外へ動植物を放つことのないよう、生き物を飼育するうえでのマナーや外来生物の適切な取り扱いに関する情報などを発信し、外来種の生態系への影響を防止します。

1 P43に語句説明あり。

2 P29に語句説明あり。

6-3 農地からの恵みを享受しよう

農地の保全と再生に努めるとともに、農業や地域で採れた農作物に親しむ機会を創出することにより、農地からの恵みを持続的に享受できる環境づくりを推進します。

6-3-1 農地を有効に活用しよう

(1) 耕作放棄地¹の再生

○担い手となる農業者や法人などへ、耕作放棄地を再生させるための助成制度の情報提供などを行います。

(2) 農地の集約化

- 高齢化や兼業化が進んだ地域などにおいて、農地の維持・管理・経営発展などを目的とした、今後の中心となる経営体（個人、法人、集落営農）を明確にし、地域全体で農業に取り組む体制づくりを進めます。
- 各種団体、関係機関と連携して、農業生産法人の設立、経営、人材育成などに関する情報提供などの支援を行います。

(3) 優良農地の保全

○農地の利用状況に関する調査や農地転用許可制度の厳正な執行を通じて優良農地を保全し、農地の荒廃を防止します。

6-3-2 農業に親しもう

(1) 農地の担い手育成

○就農希望者などの受け入れ体制の構築を図り、農地の新たな担い手の育成・確保を行います。

(2) 市民農園の整備

○利用されていない土地などを市民農園として活用するなど、農業に親しむ場の創出に努めます。

(3) 環境配慮型農業の推進

○各種団体と連携し、有機・無農薬栽培、農薬・化学肥料の低減など環境配慮型農業の普及を図ります。

¹ P43に語句説明あり。

6-3-3 地産地消を進めよう

(1) 地域で採れた農作物の消費促進

○消費者が地域で採れた農産物に対する理解を深めるとともに、生産者と消費者とをつなぐ取り組みを進めることにより、地産地消を推進します。

(2) 給食の地産地消

○学校給食に地域の農産物を積極的に利用することにより、子どもたちの地域の農業に対する理解を高めるとともに、特有の食文化を伝える食育に活用します。



2011年度全建賞(港湾部門)を受賞しました

概要

国土交通省四国地方整備局松山港湾・空港整備事務所及び松山市で実施した「松山港海岸和気地区整備事業及び和気浜緑地環境整備事業」が、社団法人全日本建設技術協会の2011年度全建賞を受賞しました。

本賞は、社団法人 全日本建設技術協会が設置し、「建設技術の活用」や「公共事業の進め方やストックの運用の工夫等」により、特

出した成果が得られた事業や施策に贈られるもので、1953年に創設された伝統ある賞です。

この事業は、伊豫十二景に選ばれた白砂青松の風光明媚な景勝地として、古くから親しまれている和気浜海岸の良好な自然環境を保全、活用しつつ、地域の方の憩いの場として、また、レクリエーションの拠点として、愛され、親しまれる安全で安心な公園として整備を行ったものです。



着工前（緑地）



完成（緑地）



完成（護岸）



動植物の移植風景

工事予定箇所にレッドデータブック¹まつやま2002に掲載されている希少野生動植物の生息・生育が確認されたことから、地域の子どもたちと一緒に、これら動植物を一時的に移植し、施工後に再移植するなど、自然環境の復元に取り組みました。

1 P29に語句説明あり。